

土粘土利用度調査にみる造形表現における 土粘土の役割

堀 尾 昇 平

Investigating clay utilization and the role of clay in
Artistic expression

by
Syohei Horio

要旨

本稿の主題は、土粘土について現在における利用度状況と今後の幼児造形表現での発展性を考えてみることである。

本稿では、文科省は造形活動における粘土の活用について、過去は土粘土を中心に奨励していたのが現在は土粘土以外の粘土も含めて奨励している。このことが現場与えた影響はどのようなものなのか。このことで生じた土粘土の教材としての役割の変化が起きているかを探ることが目的である。このことについて今回の土粘土の幼児造形教育での利用度調査アンケートを基に、筆者が山口短期大学で昭和57年に行ったアンケート調査を比較する事で過去の造形表現での土粘土教育と現在の造形表現教育、学生等の表現としての土粘土意識の比較をすることで、今後の幼児造形表現における土粘土教育の今後の在り方を模索する。

キーワード：土粘土・紙粘土・昭和57年アンケート調査・造形表現教育

1. 研究のねらい

筆者は、毎年保育学科1年生に対し土粘土による制作を図画工作の授業の中で行っている。作業は、土粘土を泥の状態で渡し、自力で好みの固さに（制作する粘土の固さについては先に指導）調整し、制作に移るように指導している。造形授業としてはすぐに制作できるような硬さで配布し作業に移るのが普通であるが、あえて泥の状態で渡している。それは、土粘土を「もてあそび」にぎる・まるめる・ちぎる・のばす、など他の素材ではできないことが可能であること。ちぎった粘土をノリを付けずに付けることができたり、失敗しても繰り返し取り組むことができるなど幼児期における適切な素材である。」（幼児造形の基礎 2018p74）と記載



写真1 土粘土制作「手」

があるなど、造形素材としての土粘土は他の幼児の発達に望ましい材料の一つであるため、幼児の造形活動同様、泥遊び活動からさせることで、少しでも土粘土の特性を理解してもらうためである。授業課題としては「手」(写真1)と「顔」のデッサンを基に2～3回にわたり制作し立体感の把握と表現力技術の習得を目的に、立体表現作品として提出させてい

る。提出後は採点し、制作終了後の粘土は陶器の甕に水分を与えながら保存して再利用している。制作した学生にとっては甕に戻されることがむなしく思うものもある。また土粘土以外の粘土について「図画工作」授業では行っていないのが現状である。現場に密接な内容の「造形表現」授業内では平面による作業が大半を占め、2年次の選択授業「図画工作Ⅲ」での「お店屋さん」ごっこ授業時に一部の学生が、紙粘土を使用して食べ物を作成して園児たちに喜ばれ

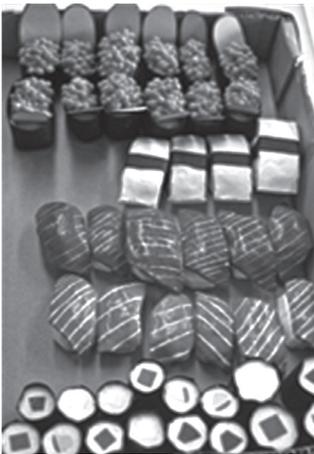


写真2 紙粘土「すし屋さん」

ている(写真2)。使用目的により粘土の種類を選ぶことは保育者として必要なことであろう。

過去は土粘土を中心に奨励していたのが現在は土粘土以外の粘土も含めて奨励している。このことが造形教育の現場に与えた影響はどのようなものなのか。このことで生じた土粘土の教材としての役割の変化が起きているかを探るため今回、土粘土利用度調査することにした。筆者が山口短期大学で昭和57年幼児教育「絵画制作」及び教材研究「図画工作」授業を行っていた時期は、「絵画制作教育法・実技編」教科書には「粘土による活動は特別の道具を必要とせず素手で自由に扱え、表現活動ができると同時に特に幼児活動としては、こねくりなどの触覚的満足による精神衛生面への効果な

ども重視されている。」(幼児絵画制作教育法実技編 1978p70) また小学校指導書「図画工作編」には1・2年の項、内容・A表現の中で「粘土で思いのまま表すこと。」とあり当時の図画工作の教科書には1～6年まで各学年で土粘土の性質や特質・使用法について説明されていた。土粘土は図画工作・絵画制作では平常授業の中で使用されていたものである。

平成30年現在、文科省発行の幼稚園教育要領の内「表現」の「2内容」(1)生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなど(以下略)(5)いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。(7)かいたり、つくったりすることを楽しみ(以下略)」とあり、前述の造形表現教科書「幼

見造形の基礎」(12粘土造形 粘土の種類) p74～75には、土粘土の優位性を認めながら他の粘土との比較とともに表記してあり粘土の一種類としての扱いになっている。以上、土粘土の利用について指導状況が変化してきている現状を踏まえ、筆者が山口短期大学での造形表現での粘土教育と現在の現場における造形表現教育状況での粘土使用意識及び学生等の表現としての粘土使用意識を今回の土粘土の幼児造形教育での利用度調査アンケートと、昭和57年に行った土粘土アンケート調査を比較する事で多様化する粘土の中での土粘土の役割について考えてみることを目的として実施した。

2 土粘土アンケート調査方法及び内容

2・1 昭和57年度山口短期大学における土粘土アンケート調査方法及び内容

今回の下関短期大学でのアンケート調査との比較の為、内容報告を行う。

アンケート資料1
土粘土についてアンケート(山口短期大学・山口教員保育養成所)1982.6～1983.1調査
性別(男 女) 年齢()

出身地() 1福岡 2山口 3中国地区 4九州北部(大分、佐賀、長崎)
5九州南部(熊本、宮崎、鹿児島、沖縄)6四国地区 7近畿地区 8中部地区 9関東地区

土粘土について、下記の質問について思うものについてその数字を記入してください。
また記述をお願いします。

1 土粘土という言葉がめいどいかなほどのよさなものですか
() a) 無い b) 少 c) 多 d) 多い e) その他

2 1の問いでも答えた人のお答えください。
いやな理由をお答えください。
() a) 嫌いな b) 手や服が汚れる c) 内付けが犬火 d) 壊れる
e) 保管が大変 f) その他

3 土粘土を制作に使用した学校等及び学年等について(複数回答可)
() a) 幼稚園未満 b) 幼稚園 c) 小学校1年 d) 2年 e) 3年 f) 4年
g) 5年 h) 6年 i) 7年 j) 8年 k) 9年 l) 10年 m) 11年 n) その他

4 土粘土で何を作りましたか。(自由記述)

5 土粘土以外の粘土の使用について(複数回答可)
a) 粘土 b) 紙粘土 c) 化学合成粘土(そのままとめて作品にする) d) 焼成用粘土 e) その他(使わない)

6 各種粘土で作りましたか。(複数回答可)(○を付けてください)
a) 紙粘土(動物 人形 人物 顔 手 レリーフ 皿 花瓶 お面 皿 湯呑 茶碗 乗り物 恐竜 灰皿 その他)
b) 粘土(動物 人形 人物 顔 手 レリーフ 皿 花瓶 お面 皿 湯呑 茶碗 乗り物 恐竜 灰皿 その他)
c) 化学合成粘土(動物 人形 人物 顔 手 レリーフ 皿 花瓶 お面 皿 湯呑 茶碗 乗り物 恐竜 灰皿 その他)
d) 焼成用土(動物 人形 人物 顔 手 レリーフ 皿 花瓶 お面 皿 湯呑 茶碗 乗り物 恐竜 灰皿 その他)
e) その他(動物 人形 人物 顔 手 レリーフ 皿 花瓶 お面 皿 湯呑 茶碗 乗り物 恐竜 灰皿 その他)

7 小学校教育において土粘土は必要と思いますか。
a) 必要 b) 不必要

8 土粘土使用後の感想(自由記述)

()

以上ご協力ありがとうございました。

図1 山口短期大学・山口教員保育養成所学生

アンケート資料2
美術教育の土粘土(初期)についてアンケート(山口短期大学紀要 教員対象)
1982.7.1～1982.7.31調査
性別(男 女) 年齢()

出身地() 1福岡 2山口 3中国地区 4九州北部(大分、佐賀、長崎)
5九州南部(熊本、宮崎、鹿児島、沖縄)6四国地区 7近畿地区 8中部地区 9関東地区

土粘土について、下記の質問について思うものについてその数字を記入してください。
また記述をお願いします。

1 土粘土を授業で使用しましたか。
()

(1) 製した学年及び作品について教えてください。
()

2 授業上での土粘土の長所や短所について教えてください。
()

3 土粘土の保管について教えてください。
()

4 図画工作教材として土粘土は必要性と思いますか。
a) 必要 b) 不必要

5 土粘土以外の粘土の使用について(複数回答可)
a) 粘土 b) 紙粘土 c) 化学合成粘土(そのままとめて作品) d) 焼成用粘土 e) その他(使わない)

6 各種粘土で作りましたか。(複数回答可)(○を付けてください)
a) 粘土(動物 人形 人物 顔 手 レリーフ 皿 花瓶 お面 皿 湯呑 茶碗 乗り物 恐竜 灰皿 その他)
b) 紙粘土(動物 人形 人物 顔 手 レリーフ 皿 花瓶 お面 皿 湯呑 茶碗 乗り物 恐竜 灰皿 その他)
c) 化学合成粘土(動物 人形 人物 顔 手 レリーフ 皿 花瓶 お面 皿 湯呑 茶碗 乗り物 恐竜 灰皿 その他)
d) 焼成用土(動物 人形 人物 顔 手 レリーフ 皿 花瓶 お面 皿 湯呑 茶碗 乗り物 恐竜 灰皿 その他)
e) その他(動物 人形 人物 顔 手 レリーフ 皿 花瓶 お面 皿 湯呑 茶碗 乗り物 恐竜 灰皿 その他)

7 土粘土に対する感想(自由記述)

()

以上ご協力ありがとうございました。

図2 幼稚園・小学校中学校等 教員

調査内容については、前回のアンケートを基に今回も同様に作成しているが、教員アンケートの部分については、前回は小学校課程を含むため「美術教育」にし、対象教員を小学校から短大教員まで幅広く調査した。ただ調査対象数が小学校を除けば少なく偏りも見られることもある。

前回のアンケート内容(前回のアンケート用紙が残存していないため紀要内容から再構築した。)

昭和57年山口短期大学 調査方法

(1) 調査対象、期間及び内容(学生)

①調査対象 山口短期大学児童教育学科初等教育学専攻1年61名・2年65名、
同学科幼児教育学専攻1年28名・2年44名、
山口教員保母養成所1年23名・2年26名、計247名

②調査期間 昭和57年6月～58年1月

③質問内容

- 1 土粘土という言葉からのイメージはどのようなものですか
() a 楽しい b いやだ c どちらでもない d その他
- 2 1の問いでbを答えた人のみお答えください。
いやな理由をお答えください。
() a きたない b 手や服が汚れる c 後片付けが大変 d 疲れる
e 保管が大変 f その他
- 3 土粘土を最初に使用した学校等及び学年等について(焼成用粘土を除く)
() a 幼稚園未満 b 幼稚園等 c 小学校1年 d 2年 e 3年 f 4年
g 5年 h 6年 i 中学1年 j 2年 k 3年 l 高校1年 m 2年
n 3年 o 短大 p その他
- 4 土粘土で何を作りましたか。(自由記述)
- 5 土粘土以外の粘土の使用について(複数回答可)
a 油土 b 紙粘土 c 化学合成粘土(そのまま固めて作品にするもの) d 焼成用粘土
e その他 f 使わない
- 6 小学校教育において土粘土は必要と思いますか。
a 必要 b 不必要
- 7 土粘土使用後の感想(自由記述)

(2) 調査対象、期間及び内容(教員)

①調査対象 小学校19名・中学4名・高校2名・短大1名、
教員経験年数5年以下3、10年以上4、20年以下8、20年以上9、
不明2

②調査期間 昭和57年7月実施

③質問内容

- 1 土粘土を授業で使用しましたか。
製作した学年及び作品について教えてください
- 2 授業上での土粘土の長所や短所について教えてください。
- 3 土粘土の保管について教えてください。
- 4 図画工作教材として土粘土は必要性といますか。

a 必要 b 不必要

5 土粘土以外の粘土の使用について（複数回答可）

a 油土 b 紙粘土 c 化学合成粘土（そのまま固めて作品にする） d 焼成用粘土

e その他 f 使わない

6 土粘土に対する感想（自由記述）

今回の調査との比較については後述するが、前回のアンケート調査の結果及び考察については、学生は、好き嫌いまたは男女差なのか、嫌う内容として「作るだけでなく準備からあと片付けまでかなりの労働を伴うこと、また手や服を汚す」ことを述べている。好きと答えた男子の多くが「粘土でものを作っていくときグシャグシャに汚れるのを楽しい」とあり泥遊びとして粘土を捉えている。ただ造形材料として必要と答えた者は全体で78.9%にのぼりその時の教育状況と重なると思われる。

教員は、土粘土の良さ及び子ども達に与える影響などを考えると「教材として必要と思う」が、現実問題として「他の授業に追いつけられながらの作業では理想的な考えとしか思えず、教材としても用意・片付けなど煩雑なものになり授業がおろそかになる」との意見があり教育の現場では使用が難しい状況になりつつある。昭和57年調査における土粘土を使用した教員26名が考える土粘土の長所・短所について記述している。

長所 ①造形教育に良い。②児童が夢中になって取り組む。③体全体で勉強できる。匂いがなく子どもが好む。土を触る感触を児童が喜ぶ。④自然への郷愁を満たしてくれるとともに創造の本質がある。何回でもやりなおせる。また何回でも使える。⑤自分の気のすむまでやり替えが出来るのでしっかり楽しませることができる。

短所 ①保存しにくい。②学年発達度を十分考慮する事が大切。作っているとき手のぬくもりや風当たりなどでひび割れをする点。③教室・衣服が汚れる。④事後処理が煩雑である。

教員も授業において使用したいが土粘土の短所の部分や工作室等の有無が大きく影響を受け他素材に傾いていると思われる。

2・2 下関短期大学における土粘土アンケート調査状況及び内容

(1) 調査対象、期間及び内容（学生）

①調査対象下関短期大学保育学科学生1年36名2年20名計56名、

堀尾昇平「土粘土利用度調査にみる造形表現における土粘土の役割」

アンケート資料3(学生・付属高校生対象)

土粘土についてアンケート
 性別(男/女) 年齢() 18.11.28調査

出身地() 1福岡 2山口 3中国地区 4九州北部(大分、佐賀、長崎)
 5九州南部(熊本、宮崎、鹿児島、沖縄)6四国地区 7近畿地区
 8中部地区 9関東地区
 土粘土について、下記の質問について思うものについてその数字を記入してください。
 また記述をお願いします。

1 土粘土という言葉からのイメージはどのようなものですか
 () a楽しい bいやだ cどちらでもない dその他

2 1の問いでbを答えた人のみお答えください。
 いやな理由をお答えください。

() aきたない b手や服が汚れる c後片付けが大変 d疲れる
 e保管が大変 fその他

3 土粘土を最初に使用した学校等及び学年等について
 () a幼稚園未満 b幼稚園等 c小学校1年 d2年 e3年 f4年
 g5年 h6年 i中学1年 j2年 k3年 l高校1年 m2年
 n3年 o短大 pその他

4 土粘土以外の粘土の使用について(複数回答可)
 a油土 b紙粘土 c化学合成粘土(そのまま固めて作品にするもの)
 d焼成用土 eその他 f使わない

5 各種粘土で何を作りましたか。(複数回答可)(○を付けてください)
 a土粘土(動物 人形 人物 顔 手 レリーフ 皿 花瓶 お面 皿 湯呑 茶碗 茶碗 盛り物 磁電
 磁土 灰皿 その他)
 b紙粘土(動物 人形 人物 顔 手 レリーフ 皿 花瓶 お面 皿 湯呑 茶碗 茶碗 盛り物 磁電
 磁土 灰皿 その他)
 c焼成用土(動物 人形 人物 顔 手 レリーフ 皿 花瓶 お面 皿 湯呑 茶碗 茶碗 盛り物
 磁電磁土 その他)
 dその他(動物 人形 人物 顔 手 レリーフ 皿 花瓶 お面 皿 湯呑 茶碗 茶碗 盛り物
 磁電 灰皿 その他)

6 幼稚園・保育園で教材として土粘土は必要と思いますか。
 a必要 b不必要

7 小学校教育において土粘土は必要と思いますか。
 a必要 b不必要

8 土粘土に対する感想(自由記述)

()

以上ご協力ありがとうございました。

図3 下関短期大学学生、付属高校生

アンケート資料4(付属こども園教諭)

造形表現教材「土粘土」利用に関するアンケート 18.11.28~12.12調査

性別(男/女) 年齢()

出身地() 1福岡 2山口 3中国地区 4九州北部(大分、佐賀、長崎)
 5九州南部(熊本、宮崎、鹿児島、沖縄)6四国地区 7近畿地区
 8中部地区 9関東地区
 土粘土について、下記の質問について思うものについてその字や○を記入してください。
 また記述をお願いします。

1 土粘土という言葉からのイメージはどのようなものですか
 () a楽しい bいやだ cどちらでもない dその他

2 1の問いでbを答えた人のみお答えください。
 いやな理由をお答えください。

() aきたない b手や服が汚れる c後片付けが大変 d疲れる
 e保管が大変 fその他

3 土粘土を最初に使用した学校等及び学年等について
 () a幼稚園未満 b幼稚園等 c小学校1年 d2年 e3年 f4年
 g5年 h6年 i中学1年 j2年 k3年 l高校1年 m2年 n3年
 o短大 pその他

4 土粘土以外の粘土の使用について(複数回答可)(○を付けてください)
 a油土 b紙粘土 c化学合成粘土(そのまま固めて作品にするもの)
 d焼成用土 eその他 f使わない

5 各種粘土で何を作りましたか。(複数回答可)
 a土粘土(動物 人形 人物 顔 手 手 刀 レリーフ 皿 花瓶 磁電
 磁土 灰皿 その他)
 b紙粘土(動物 人形 人物 顔 手 レリーフ 皿 花瓶 お面 皿 湯呑 茶碗 茶碗 盛り物 磁電
 磁土 灰皿 その他)
 c焼成用土(動物 人形 人物 顔 手 レリーフ 皿 花瓶 お面 皿 湯呑 茶碗 茶碗 盛り物
 磁電磁土 その他)
 dその他(動物 人形 人物 顔 手 レリーフ 皿 花瓶 お面 皿 湯呑 茶碗 茶碗 盛り物
 磁電 灰皿 その他)

6 幼稚園・保育園で教材として土粘土は必要と思いますか。
 a必要 b不必要

7 小学校教育において土粘土は必要と思いますか。
 a必要 b不必要

8 土粘土に対する感想(自由記述)

()

以上ご協力ありがとうございました。

図4 認定こども園 付属幼稚園 保育教諭

付属高校美術選択生徒1年18名2年12名 計30名、学生生徒合計86名、

②調査期間平成30年11月28～30日

③質問内容

1 土粘土という言葉からのイメージはどのようなものですか

() a楽しい bいやだ cどちらでもない dその他

2 1の問いでbを答えた人のみお答えください。

いやな理由をお答えください。

() aきたない b手や服が汚れる c後片付けが大変 d疲れる

e保管が大変 fその他

3 土粘土を最初に使用した学校等及び学年等について(焼成用粘土を除く)

() a幼稚園未満 b幼稚園等 c小学校1年 d2年 e3年 f4年
 g5年 h6年 i中学1年 j2年 k3年 l高校1年 m2年
 n3年 o短大 pその他

4 土粘土以外の粘土の使用について(複数回答可)

a油土 b紙粘土 c化学合成粘土(そのまま固めて作品にするもの) d焼成用粘土
 eその他 f使わない

6 幼稚園・保育園で教材として土粘土は必要と思いますか。

a必要 b不必要

7 小学校教育において土粘土は必要と思いますか。

a 必要 b 不必要

8 土粘土使用後の感想（自由記述）

(2) 調査対象、期間及び内容（教員）

①調査対象 付属こども園保育教諭付属第一こども園10・付属第二こども園10、計20名。

②調査期間 平成30年11月28～12月3日

③質問内容

1 土粘土という言葉からのイメージはどのようなものですか

() a 楽しい b いやだ c どちらでもない d その他

2 1の問いでbを答えた人のみお答えください。

いやな理由をお答えください。

() a きたない b 手や服が汚れる c 後片付けが大変 d 疲れる
e 保管が大変 f その他

3 土粘土を最初に使用した学校等及び学年等について（焼成用粘土を除く）

() a 幼稚園未満 b 幼稚園等 c 小学校1年 d 2年 e 3年 f 4年
g 5年 h 6年 i 中学1年 j 2年 k 3年 l 高校1年 m 2年
n 3年 o 短大 p その他

4 土粘土以外の粘土の使用について（複数回答可）

a 油土 b 紙粘土 c 化学合成粘土(そのまま固めて作品にするもの) d 焼成用粘土
e その他 f 使わない

5 各種粘土で何を作りましたか。（複数回答可）

a 土粘土 () b 油土 ()
c 紙粘土 () d 化学合成粘土 ()
e 焼成用土 ()

◎保育現場の先生として造形表現教材としての粘土や工作についてのアンケート

1 保育表現活動で使用する粘土は何ですか。（○を付けて下さい。）

a 油土 b 紙粘土 c 化学合成粘土(そのまま固めて作品にする) d 焼成用土
e その他 f 使わない

(1) 保育造形表現教材で使用した粘土で何を作りましたか

粘土 () 作ったもの ()

(2) 幼稚園・保育園で造形表現教材として土粘土は必要と思いますか。

a 必要 b 不必要

(3) 保育造形表現教材として土粘土を使用していますか

a している b していない c 園に土粘土がない

a「している」と答えた人は何を作りましたか。()

b「していない」理由は何ですか()

c「園に土粘土がない」理由は何としますか()

2 土粘土に対する感想(自由記述)

3 粘土以外、工作で使用するものは何ですか。またそれを使用して何を作りましたか。

教員アンケートは、今回は現在の幼児教育の中での保育内容「造形表現」内容で行った。これはアンケート対象者が今回付属こども園の保育教諭とし、前回のアンケートを基に内容も保育現場の粘土の種類での制作内容だけでなく他造形工作活動の種類や内容を含め現在の現場状況を知るために質問を再構成した。

2・3 過去と現在の学生アンケート結果からみる教材としての土粘土扱い

ここでは、昭和57年度に調査した学生と現在の学生の各内容について比較を試みる。

(1) 土粘土のイメージについて

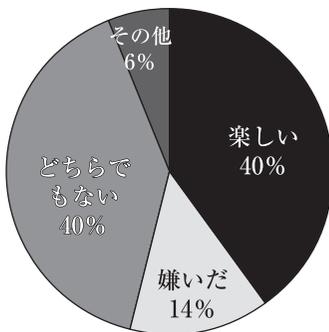


図5 昭和57年 山口短期大学学生
土粘土イメージ

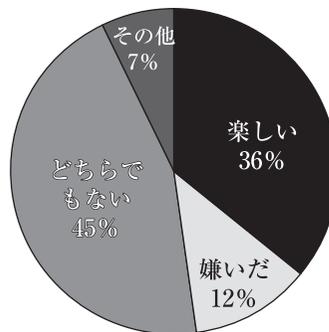


図6 平成30年 下関短期大学学生
土粘土イメージ

土粘土のイメージについては、図5・6グラフのように(「楽しい」昭和57年99名(40.1%)平成30年20名(35.9%)。「嫌だ」昭和57年34名(13.8%)平成30年7名(12.5%)。「どちらでもない」昭和57年99名(40.1%)平成30年25名(44.6%)ほぼ同様の結果が出た。「楽しい」イメージを持つ男子学生だけで見ると昭和57年は(男子数が多いこともあるが)約半数弱であったのに対し平成30年全員が「楽しい」と答えている。自由記述欄に「小さい頃の記憶が出てきたため良かった。」とあり幼少時の粘土遊びを思い出した。

(2)「土粘土 嫌な理由」について

昭和57年度調査「土粘土嫌な理由」(複数回答)(山口短大・山口教員保育養成所)
回答数男子10名女子24名 計34名(13.8%)

嫌な理由として（複数回答）①手や服が汚れる 16（47%）②後片付けが大変 14（41.2%）③汚い 10（29.4%）④疲れる 9（26.5%）⑤保管が大変 6（17.6%）⑥その他 4 の順番であった。

土粘土 嫌な理由（下関短期大学）

今回（平成 30 年）の結果を見ると①手や服が汚れる 7（70%）②後片付けが大変・疲れる・その他、でありこれも前回（昭和 57 年）と順位は変わらない結果となった。自由記述では「手が汚くなる。」「爪に入るとだるい。」「粘土で遊ぶのは好きだけど、片付けが大変なので嫌です。」「すぐ硬くなる。」「手を洗わないといけないのが大変。」とあり昭和 57 年の調査に於いても同様な意見が見られる。

(3)「土粘土を最初に使用した学校及び学年」

昭和 57 年度調査（山口短大・山口教員保母養成所）

初粘土体験	計		初粘土体験	計	
幼稚園未満	18	7.3%	中 1 年	1	0.4%
幼稚園等	48	19.4	2 年	6	2.4
小 1 年	14	5.7	3 年	2	0.8
2 年	9	3.6	高 1 年	1	0.4
3 年	15	6.1	2 年	1	0.4
4 年	11	4.5	3 年		
5 年	13	5.3	短大	66	26.7
6 年	8	3.2	その他	3	1.2

平成 30 年度調査（下関短期大学）

初粘土体験	粘土のイメージ				計	初粘土体験	粘土のイメージ				計		
	好き	嫌い	どちらでもない	その他			好き	嫌い	どちらでもない	その他			
幼稚園未満			1		1	0.17%	中 1 年						
幼稚園等	10	3	4	1	18	32	2 年						
小 1 年	1		3	2	6	10.7	3 年						
2 年	1				1	0.17	高 1 年	1				1	0.17%
3 年							2 年						
4 年	1		1		2	0.36	3 年						
5 年							短大	2	5	13	1	21	37.7
6 年							その他			1		1	0.17

図 7 土粘土 嫌いな理由アンケート結果（平成 30 年下関短期大学）

前回の表によると、①短大 66 ②幼稚園 48 ③幼稚園未満 18 ④小学 3 年 15 ⑤小学 1 年 14 が「初めて粘土に触れた」順番になっている。今回の表を見ると前回の調査とほぼ同様に①短大 21 ②幼稚園 18 ③小学 1 年 6 になっている。調査数が少ない為、他学年の体験が測れなかった。高校の美術の教科書には粘土による制作過程の表記・指導があるが、この調査には出てこなか

った。この調査だけで判断するのは早計ではあるが、幼児期にかなりの数の教育・保育施設で（昭和 57 年調査 26.7%、平成 30 年調査 33.9%）年数にかかわらず土粘土による遊びが行われているように見える。

(4)「土粘土以外の粘土の使用について」

昭和 57 年度調査（山口短期短大・山口教員保母養成所）（複数回答可）

粘土の種類については、調査時現在（昭和 57 年）小学校等で使用または教科書等で使用されているものを見て調査した。

油土 159（64.3%）紙粘土 189（78.5%）化学合成粘土 43（17.4%）焼成用土 148（59.9%）

土粘土アンケート（下関短期大学）合計 56 名

他粘土使用	楽しい	嫌い	どちらでもない	その他	計
油土	9	5	7	3	24
紙粘土	15	6	15	1	37
化学合成粘土	2		3		5
焼成用土	8	15	3		26
その他				小麦粉粘土 1	1
使わない			1		1

その他 1 使わない 1

平成 30 年調査下関短期大学では、油土 24（42.9%）紙粘土 37（66.1%）化学合成粘土 5（8.9%）焼成用土 26（46.4%）となった。

これも前回（昭和 57 年調査）と今回（平成 30 年調査）が同じような結果になっている。使用度が高いのは共に「紙粘土」で、続いて「焼成用土」・「油土」になっている。これは前回も今回も保育・教育現場の状況に沿っていると思われる。後述するが、「油土」は自由遊び時間等に、紙粘土はカラフルな着色による作品展制作用に使用されることが多いという。また焼成用土は制作内容の高度な内容を求めれば小学校高学年で使用することが多いと思われる。

(5)「小学校教材として土粘土は必要と思いますか」

昭和 57 年度調査（山口短大・山口教員保母養成所）

回答数 247（男子 72 女子 125 性別不明 12）無記入 38

教材として必要 197（男子 69 女子 116）不必要 12（男子 3 女子 9）

平成 30 年度調査（下関短期大学）合計 56 名

幼・保育教材	楽しい	嫌い	どちらでもない	その他	計
必要	16	4	10		30
不必要	1	3	11	2	17
小学校教材	楽しい	嫌い	どちらでもない	その他	計
必要	17	3	12	1	33
不必要	1	4	10	1	16

小学校の教材として土粘土は、前回の大学が小学校課程もあるためか必要が79.8%にもなっている。今回調査では58.9%であるが「楽しい」学生だけでなく必要と思っている者もある結果となった。自由記述には「すぐに硬くなるので高校以降の方が良いと思う。」と高学年での使用を求める声もある。また土粘土が教材として不必要が今回、前回の学生数を上回る結果となった。また「小さい頃の記憶が出てきたため良かった。」「想像力を養うことができるので必要だと思う。」「原材料が土なので汚れても落ちやすいのは良いと思う。」「人によって変わるし簡単に思いどおりにならないのが楽しい。」「手で触った感じも楽しめていると思う。」「粘土はどの年の人でもでの運動になる。」「楽しいから良いと思う。」「手や服が汚れてしまっても想像して色々なものを作ることができる。」「手が臭くなるけど想像力が豊かになる。」「自分の発想で形が変えられる。」「誰がしても面白いし楽しいと思う」など好意的に土粘土を受け止めている。制作活動よりも手が汚れるなどの不満も多く聞かれる。「粘土で遊ぶのは好きだけど、片付けが大変なので嫌」「頭のイメージと違うものになる。すぐひびが入るので印象が悪い。」「汚いからしないでいいと思う。」「手を洗わないといけないのが大変。」「管理が難しそう。」「硬さの調整が難しそう。」「爪に入るのが嫌」などが前回も出ており年数経ても感想も変わらない。

3 教員アンケートについて

3・1 昭和57年度山口短期大学における土粘土教員アンケート

(1) 土粘土を授業で使用しましたか。

26名中19名。図画工作授業内容にあるため多いと思われる。また学校に土粘土がない場合もあり、その場合油土や紙粘土が使用されていたようである。(4年目女子教員)

(2) 土粘土の保管について

粘土倉(図画工作室・美術室に設置)・ポリバケツ(衣装ケース・箱)各自教室に置く等粘土倉はごく一部の学校でありポリバケツや各自管理が多いと思われるが水分や固まって粉にして再生にするにしても各自は難しかったのではないかと思う。先生方の苦労があったのではないかと推察する。

(3) 図画工作に土粘土は必要と思いますか

必要26名中22名。不必要3名 学年に応じて必要1名

前述したが現時点(昭和57年当時)図画工作授業において行われていたためか大半の先生方が必要と答えている。また自由記述には「子どもの自由な発想や創造性を高めるために良い教材である。(教員歴12年)」「低学年の児童ほどぬるぬるした粘土に触れることを喜ぶし、作品を完成させた喜びもあるが作る過程で指先の感触も発達させることにつながる。また障がい

児に対しても粘土は有効であると思われる。」「児童の創造性、手先の器用さなど思いがけない児童が案外良いものを作るのを発見したりする。」と記述している。粘土制作後終了の仕方についても「作った作品に引導を渡しダンゴにする決断も必要である。」とあり児童に再利用するために、粘土を戻す行動決断を求めないといけないこともある。また「時間の制約上もあり、だんだん土粘土を使用する機会が減少している。化学合成粘土の開発が進み質の良いものが出来ているため現在では土粘土より使用回数が増えている。」「現在、良質で子どもに適した教材用粘土が入手できるので授業のねらいいかんによっては必ずしも土粘土を経験させなくてもよい。」との答えもあり昭和57年当時から準備や後片付け等の教員・保育者の負担が大きくなっていることと、使い勝手の良い教材（紙粘土等）が増えて選択できるようになったことも教材としての土粘土から離れる要因になっている。現在は、粘土教材の種類も多く、保育者が保育室での使用に適した粘土を使用している。

3・2 平成30年下関短期大学における土粘土教員アンケート

認定こども園付属第一幼稚園 10名・認定こども園付属第二幼稚園 10名、保育教諭 計20名。

調査期間 平成30年11月28～12月3日

「保育現場における造形表現教材としての粘土や工作についてのアンケート」として回答を得た。年齢・経験構成も園長から主任・新任教諭まで幅広く回答を得た。

アンケート結果を見ると、土粘土のイメージは「楽しい」が7割近くあり印象的には受け入れられているようである。「初めて土粘土に触れた体験」は学生と変わらない。まとめて多いのは幼稚園年齢と短大になっているが、小学生年齢に体験したことは、前回調査結果、学生が小学校各学年に体験していたことと合うところがある。教諭の年齢幅によるものかもしれない。「土粘土以外の粘土」については、紙粘土は全員の先生が体験している。また油土は7割の教諭が幼児期に体験していることが多い。また「小麦粉粘土」使用が3名いた。

「保育現場における保育表現としての粘土」について紙粘土が最も多く、次いで油土になっている。

今回「幼稚園・保育造形表現教材として土粘土の必要性」を聞いた。

造形表現土粘土利用アンケート結果 保育教諭 計20名

土粘土 幼・保育教材	土粘土イメージ				計
	楽しい	嫌だ	どちらでもない	その他	
必要	4		1		5
不必要	3				3
どちらともいえない	2		1		2
使用したことがないので何とも言えない					2

図 8-1

調査結果は、表のとおり必要・不必要が半々に分かれ、また「どちらともいえない」（使用したことがないのでわからない）、未回答9名となった。これは、次の表で理解できる。

質問事項に造形表現活動での土粘土の利用状況はアンケート調査結果ではあるが土粘土が園にないことにより活動がないことが分かった。前回の調査では小学校が中心で図工室や美術室など設備が整っている状態での感想であるのに対し、今回は保育室での活動に限られているため、土粘土作業は難しい事と思われる。していない理由「用途アンケート結果を見ると、土粘土のイメージは「楽しい」が7割近くあり印象的には受け入れられているように思う。「初めて土粘土に触れた体験」は学生と変わらない。まとめて多いのは幼稚園年齢と短大になっているが、小学生年齢に体験したことは、前回調査結果、学生が小学校各学年に体験していたことと合うところがある。

保育造形表現教材として土粘土を使用していますか

項 目	楽しい	いや	どちらでもない	その他	計
している	1				1
していない				4	4
園に土粘土がない	2			9	11

図8-2 付属幼稚園保育教諭 土粘土利用状況

土粘土のない理由「準備等ができないため油粘土を使うことが多い。」「土粘土に対する取扱い方などが職員間で周知できていない」「保管が出来ない2」「土粘土の取り扱い方がよくわからないから」「汚れると大変だから」「手に入りにくい」「後片付けが大変」「土粘土でなければならないという理由がないため」「他の粘土を使用しているため土粘土は必要ないため」「油土の活動、紙粘土の活動は期案にあるが、土粘土の活動は組み込まれていないため」「遊ぶ時は、油土を使い、作品作りには紙粘土を使用するから」とあるが使用してみたい気持ちも記述してあった。「指先の運動になるため小さい頃から取り入れるといいと思う」「丸めたり伸ばしたりつぶしたりなど指先を使うことができる活動で良いと思う」以上が園に土粘土がない現状での粘土活動における保育者の意見である。

現状では「保管容器・保管場所・状態維持・保育室での使用による汚れ、後片付け・清掃・手や服の汚れ」など土粘土を造形材料として導入には現在の他の造形教材に比べればかなり保育者に負担がかかるものだとわかる。

また現在の保育造形活動としてどのような活動をしているか聞いてみた。

「他粘土・工作の活動について」

園によっては活動が違うのが分かる。紙粘土制作については作品展に展示されることもある。(図8-3)

製作する物についても園の個性があるように見受けられる。粘土や工作活動についてはアン

保育造形表現教材で使用した粘土で何を作りましたか

楽 し い
油土（動物・食べ物・型抜き） 紙粘土（花瓶4・人形・動物・指人形・ケーキ）
小麦粉粘土（団子・人形・食べ物・動物等） トイレットペーパー粘土（ケーキ・カップケーキ） 油土（動物・花・キャラクター・食べ物） 紙粘土（ドングリオーナメント・指人形・貯金箱・ブローチ・キャラクター・人物・花瓶・顔（卒園制作））

図8-3 付属幼稚園保育教諭 各種粘土利用状況

「粘土以外、工作で使用するものは何ですか。またそれを使用して何を作りましたか」
付属第一認定こども園 （牛乳パックなどの廃材…預金箱、その他） （折り紙…紋切り3）（段ボール…迷路・家・人形・動物など） （牛乳パック…家・乗り物・おもちゃ・車） （紙コップ…人形・おもちゃ） （トイレットペーパーの芯…たこ）（厚紙…家・ひな壇） （自然物…フォトフレームなど）
付属第二認定こども園 （牛乳パック…財布・おもちゃ貯金箱・コマ・椅子・ベット・水車・パッキン人形その他色々作れる） （紙皿・紙コップ…おもちゃ・壁面飾り） （新聞紙…ボール・服・芋・剣・貯金箱・ロケット） （紙コップ…ロケット・人形） （紙皿…コマ・でんでん太鼓・写真立て・プーメラン） （プリンカップなど廃材…楽器・おもちゃ・人形・絵本の世界をクラスで表現40） （風船…貯金箱）（トイレットペーパーの芯…人形（ひな人形）） （発泡トレ…船）（ペットボトル…シャワー）

図8-4 付属幼稚園保育教諭 工作教材制作状況

ケートの結果を見ると第二こども園の方が幅広く積極的に活動しているように見える。

工作についても新しいものではなく廃物利用（牛乳パックやプリンカップ・自然物等）することが多いことが分かった。また卒園制作に紙粘土で顔を制作するなどユニークな取り組みが見られた。（図8-4）

自由記述には「焼成出来る粘土は作品づくりの幅が広がり立体造形や動きのある作品ができるので教材として楽しんでみたいと思う。」「小さい頃から手で触る体験の一つとしてよいと思う。」「泥んこ遊びの要領で子どもたちも楽しめる題材である。」「いろいろな素材に触れさせたいと思うので機会があれば使ってみたい。」など土粘土に興味を持つ内容が見受けられるが、中には「昔の土偶のイメージ。」「保育表現活動で土粘土を使用したことがないので、幼児の活

動に適しているか分からない。」「どのようなものかよくわからない。」対応に苦慮している姿が見受けられるが、幅広い造形表現活動で園児に表現能力の発達支援に努力している姿が見えた。

4 まとめ（今後の土粘土の役割について）

前回（昭和57年度）アンケート調査に基づき今回（平成30年）のアンケート調査を行い35年間の違いを見てみた。しかしながら35年前の学生と現在平成30年の学生と行動や考えることがあまり変わらないことが判明した。

ただ平成30年度調査にも幼稚園年齢での活動で昭和時代から変わらず土粘土による基礎造形教育が行われていることを表していることが分かった。これは造形表現の教科書にも「土粘土遊びは幼児期於いて泥遊び体験であり、これが減少することで、絵画表現による「スクリブル」体験と同様に造形表現での「もてあそび」体験が減ることになること。できることなら外で天気の良い日に土粘土で泥遊びを砂遊び同様に園児たちに提供する」ことを実践している園があると思われる。

筆者は、将来、保育者になる学生に対して今回のアンケート結果と通じて感じたことは、短大の授業で土粘土に初めて触れただけの体験で終わるのではなく、土粘土の役割としてその魅力（「にぎる・つまむ・ちぎる・つける・まるめる・のぼす」など他の素材ではできないことが可能であること。ちぎった粘土を失敗しても繰り返し取り組むことができること）を現場で幼児に伝えることができるように現代に合う内容や指導法・使用するための注意点などについて細かく指導し、現場に通用する立体造形活動指導支援ができる保育者に養成する必要性を感じている。

また平成30年の教員アンケートを見ると「興味はあるが扱い方が分からない」教諭がみられるが、幅広い立体造形活動の中での土粘土利用は制約された時間の中での造形活動として行うのではなく、指導書のように野外活動や砂遊び・泥遊びの一環として土粘土体験を捉えたと導入しやすいのではないかとと思われる。

今回のアンケートを基に、土粘土をより楽しく幼児教育の指導に導入しやすく、楽しい活動になるように保管方法を含め検討し幼児の発達に即した立体造形活動における土粘土の役割を幼児教育現場に提案していきたい。

末尾ながらお忙しい中アンケートにご協力いただいた認定こども園付属第一幼稚園・認定こども園付属第二幼稚園の先生方に感謝します。同時に、ご指導いただいた高杉志緒氏、堀尾紀之氏に対して、記して感謝いたします。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省：幼稚園教育要領 2018
- 2) 厚生労働省：保育所保育指針 2018
- 3) 文部省：小学校学習指導書「図画工作編」日本文教出版 1978
- 4) 文部省：幼稚園教育指導書領域編「絵画制作」学習研究社 1980
- 5) 日本児童美術研究会編：小学校教科書図画工作 1～6 日本文教出版 1982
- 6) 林建造・松本巖・豊田勝秋・桑原実・斎藤顕治・枝常弘：幼児絵画制作教育法・実技編 東京書籍 1978
- 7) 斎藤顕治・松村容子：ねんどあそび 一土の感動を生かす理論と実践サクラクレパス 1980
- 8) 東山明・大谷恵子・東山直美：乳幼児の造形表現 同朋舎出版 1988
- 9) 鯉坂二夫：表現・幼児造形<理論編> 保育出版社 1999
- 10) 辻泰秀：幼児造形の研究（保育内容「造形表現」萌文書林 2014
- 11) 樋口一成：幼児造形の基礎（乳幼児の造形表現と造形教材）萌文書林 2018
- 12) 井上周一郎：粘土の造形表現活動に関する考察 鹿児島女子短期大学紀要第 49 号 2014
- 13) 堀尾昇平：土粘土利用度調査にみる美術教育における土粘土の役割山口短期大学研究紀要第 5 号 1983